



# 絵本について



2022.10.01 ほしはなぐみ

1・2歳児の子どもは絵本が大好きです。保育園でも本棚から好きな絵本を選んで1ページずつめくったりしながら、保育士に「読んでー♪」と持ってきます。絵本を読んでいると、子ども自身が知っている動物を指さしたり、名称を言ったり、簡単でリズム感がある言葉を復唱したりします。食べ物の絵本では食べる真似をしたりすることもあります。何度も見ている絵本では、内容を覚えていて次の言葉を言ってみたり…と一人ひとりが様々な楽しみ方で見たり、聞いたりしています。

実物にたくさん触れて、その名前を数多く知っている子どもは、“絵”という平らな二次元の世界を見ても「同じもの」と認識できるようになります。この頃、家庭では絵本や絵カードが貴重な役割をします。

本を選ぶのは、玩具を選ぶのと同じように大切なことです。図書館に出かけるのもとても良いことですが、家庭の子ども用本棚にもお気に入りの本を並べておくといいです。この言語の大切な時期、つまり「言語の敏感期」の真っただ中にある子どもは、同じ本を何度も繰り返し読みたがることがあります。絵の説明をしてもらいながら、ただ、おしゃべりをしたいだけのときもあります。子どもは、丁寧にページをめくる方法、両手で本を持ち運び、そして、元の場所に片付ける方法をやって見せてもらうのも大好きです。

ほしはなぐみで人気のある絵本を紹介します。

- 「おにぎり」福音館書店
- 「くだもの」福音館書店
- 「だるまさんが」ブロンズ新社
- 「おばけなんてないさ」ポプラ社
- 「どんないろがすき」フレーベル館

おにぎりを作ったり、食べたり…、お友達と「どうぞー」と言いながら食べたりしています♪



大人が本を読んであげると、子どもは魅了され、長時間でもずっと座っています。ぜひ、ご家庭でも絵本を読んで“本を読む楽しさ”や“読書を愛する心”を伝えてあげましょう。

「デチタ でちた できた！」引用